

私の目指す弁理士像

No.66

会員 中野 圭二

弁理士試験に合格し、弁理士登録してから早くも2年になる。私が弁理士という資格を知ったのは大学生の頃であるが、その頃はとても難しい資格というイメージしかなく、いまこうして「私の目指す弁理士像」について書くなんで夢にも思っていなかった。

大学卒業後 U ターン就職して、全く特許と縁のない仕事をしていた私にとって、この2年間は早く実務に慣れることが目標であった。弁理士試験の受験を決意した頃には何か目標を持っていたはずであるが、今回「私の目指す弁理士像」の執筆を依頼されて改めて考えてみると、これが「私の目指す弁理士像」だというものがない。

そこで、この機会に弁理士としての自分の目標を考えてみようと思う。

クライアントに満足して頂ける弁理士

「私の目指す弁理士像」についてだが、クライアントに満足して頂ける仕事ができる弁理士になりたいと思う。当たり前だけれども、私が代理したクライアントが、この弁理士に依頼して良かったと思えるような弁理士になりたい。そのためには、他の人にはない何か秀でたものを持つ必要があると思う。特定の技術分野に長けた弁理士、外国法に強い弁理士、訴訟に強い弁理士.....と色々な弁理士像があるが、その中で何か一つ他人に絶対負けないというものを持てるように努力していこうと思う。

仲間を増やす

一方、自分ひとりで出来ることには限界があるので、いろいろと相談したり助け合ったりすることができる仲間を増やすことも必要である。弁理士試験合格と同時に地方から東京に出てきた私には、受験仲間や先輩弁理士の知り合いも殆んどいなかったので、積極的に人との交流を図るように努めている。そうすることにより遊び仲間や飲み仲間が増えてきたので、この仲間をこれからも大切にしていこうと思う。

体力作り

また、事務所の弁理士としては体が資本なので、いつまでも元気に仕事を続けていくことができる体力作りも必要であると思う。特許は出願から20年、商標は更新すれば永遠に続く。元気に仕事を続けていくこともクライアントから信頼を得るためには必要であると思う。弁理士という職業はパソコンに向かった仕事が多く、体がなまりがちなので、休みの日にはできるだけ体を動かすように努めている。今は、競技スキーに取り組んでおり、体力にはある程度自信がある。弁理士スキーヤーとして、競技スキーの大会で優勝することも目標の一つである。

10年後、20年後の自分がどうなっているか分からないが、その頃にもう一度この「私の目指す弁理士像」を読み返して比較してみたいと思う。